

とみか

—町議会だより—

No. 133
MAY

5



CONTENTS

- 第1回臨時議会
平成20年度一般会計補正予算など 3
- 第2回定例会
坂井町長の平成21年度予算に向けての施政方針など 2
平成20年度一般会計補正予算・人事案件など 3~4
平成21年度一般・特別会計予算
- 町政Q & A 一般質問 4人が登壇 5~12
- 議会の動き・編集後記 12

新1年生の下校

横断歩道手前で『手を挙げて!』と、
先生に教わり校門から下校する
新1年生のみなさん

第二回定例会・坂井町長が、平成二十一年度予算に向けての施政方針を説明

▽平成二十一年度施政方針・予算編成の大綱

ご案内のように、昨秋以降、アメリカ発の金融経済破綻から始まった世界的な不況の嵐はまだまだ静まることなく、全世界を巻き込んだ形で今も進行している状況にあります。日本も当然のように、自動車、電気業界を初め、多くの産業において厳しい状況を呈しております。これからどうなるかという点に不安を感じざるを得ません。

そういった状況の中で、富加町行政は、議員の皆様や町民の皆さん方のご指導、ご協力によりまして、今のところ順調に推移をいたしております。しかしながら、今国会において審議をされております農地法の改正が、我が富加町にとって重大な

問題を提起するのではないかと思います。国は、農地の保全と農家の保護・育成が目的と思われ、富加町にとってどのような形になっていくのか、いささか心配をしているところであります。

次に商業につきましては、今回の定額給付金の支給にあわせて、町内で少しでもこの定額給付金を消費していただくよう、町がプレミアムを付ける形で商品券などの発行を商工会を通じて提案いたしていただきました。最終的には日の目を見ることなく終わる可能性があります。

一方、町民の皆さんに影響があると思います。負担の問題は、介護保険料の大幅な上昇があります。県内各市町村の数字がどうなっているのかということとは分かりませんが、

ども、たぶん、県内でもトップクラスになると思われ、経済的に大変厳しい折ではございますけれども、介護保険制度を維持する上でも極めて重要であります。何とぞご理解賜りますよう、よろしくお願いを致します。

いづれにいたしまして、厳しい財政状況の中、議員各位のお力をおかりしながら富加町発展のために努力する所存でございますので、さらなるご指導、ご協力をお願いいたします。

次に、平成二十一年度予算編成の大綱について申し上げます。

町政全般については、景気の悪化による影響により、税収はわずかであり、税収は減じております。

とりわけ法人町民税については、町税全体に占める割合が高くあります。削減も、大きく減じております。地方交付税は、雇用創出につながる地域の实情に応じた事業

を実施できるような創設された地域雇用創出推進費により増加を見込んでおりますけれども、地方道路譲与税や自動車取得税交付金については時限的な減免措置が講じられており、減収につながる見込みを持っております。

一般的に財政状況は引き続き厳しいものがあり、おのずと限られた財源の中で、事業の緊急性を重視しながら真に必要な事業の取捨選択を行い、予算の重点的な配分と最も効率的な内容になるよう努め、一般会計予算として二十五億八百万円を計上しました。前年度比較では一億二千五百万円、率にして5・2%増となり、二年連続して一般会計予算は増額となっております。

財源不足のため、財政調整基金から一億二千万円ほどを取り崩すほか、積極的に投資的経費の確保を図るため、臨時財政対策債、道の駅地域振興施設整備事業債等による町債を二億八千六百

六十万円計上致しております。前年度と同様に、引き続き経常的な経費の徹底した見直しを行っておりますが、平成二十年度から事業を開始しておりますまちづくり交付金事業を活用して、道の駅に併設する地域振興施設の本体の建設工事や、町道滝田69号線、同じく町道稲荷北野線歩道設置事業、半布ヶ丘公園内の大型遊具の再整備及び保健センターの耐震等工事に伴う設計業務を本年度は計画致しております。また、生活道路の整備や地籍調査などの生活に密着した事業、半布ヶ丘公園キャンプ場施設の修繕及び橋梁の点検事業を含めた計画策定を行います。直接、町民の負担軽減になります助成金等補助金交付制度につきましては、中学3年生まで医療費を無料化する乳幼児等医療助成事業のほか、妊婦健康診断費の大幅な拡充による助成金を計上致しております。

六十万円計上致しております。

前年度と同様に、引き続き経常的な経費の徹底した見直しを行っておりますが、平成二十年度から事業を開始しておりますまちづくり交付金事業を活用して、道の駅に併設する地域振興施設の本体の建設工事や、町道滝田69号線、同じく町道稲荷北野線歩道設置事業、半布ヶ丘公園内の大型遊具の再整備及び保健センターの耐震等工事に伴う設計業務を本年度は計画致しております。また、生活道路の整備や地籍調査などの生活に密着した事業、半布ヶ丘公園キャンプ場施設の修繕及び橋梁の点検事業を含めた計画策定を行います。直接、町民の負担軽減になります助成金等補助金交付制度につきましては、中学3年生まで医療費を無料化する乳幼児等医療助成事業のほか、妊婦健康診断費の大幅な拡充による助成金を計上致しております。

また、生活道路の整備や地籍調査などの生活に密着した事業、半布ヶ丘公園キャンプ場施設の修繕及び橋梁の点検事業を含めた計画策定を行います。直接、町民の負担軽減になります助成金等補助金交付制度につきましては、中学3年生まで医療費を無料化する乳幼児等医療助成事業のほか、妊婦健康診断費の大幅な拡充による助成金を計上致しております。

また、生活道路の整備や地籍調査などの生活に密着した事業、半布ヶ丘公園キャンプ場施設の修繕及び橋梁の点検事業を含めた計画策定を行います。直接、町民の負担軽減になります助成金等補助金交付制度につきましては、中学3年生まで医療費を無料化する乳幼児等医療助成事業のほか、妊婦健康診断費の大幅な拡充による助成金を計上致しております。

また、生活道路の整備や地籍調査などの生活に密着した事業、半布ヶ丘公園キャンプ場施設の修繕及び橋梁の点検事業を含めた計画策定を行います。直接、町民の負担軽減になります助成金等補助金交付制度につきましては、中学3年生まで医療費を無料化する乳幼児等医療助成事業のほか、妊婦健康診断費の大幅な拡充による助成金を計上致しております。

ます。

農業施策についても、クリーン農業の推進として残留農薬検査に対する補助や、安定的な農産物の供給のために農業用ビニールハウス設置に対する補助も創設いたしております。道の駅関連等まちづくり交付金事業を重点的に予算配分し、地域活性化事業を押し進めてまいるとともに、子育て支援対策、道路・橋梁の安全確保や、耐用年数の到来に伴う施設の維持・更新に係る経費を計画的に配分しながら予算編成をいたしております。



▲平成20年度に歩道など整備された町道 滝田・八反田線

平成二十一年第一回臨時会

第一回議会臨時会は、一月二十七日に開かれまし

た。
今回の臨時会の案件は、平成二十年度一般会計の補正、後期高齢者医療特別会計の補正が審議され、すべて原案どおり可決されました。

補正予算

▽平成二十年度一般会計補正予算

(第四号)

二千七百三十六万八千円を追加し、歳入歳出それぞれ二十四億五千二百一十一万九千円とする。歳出の主なものは、タウンホールとみかの外壁補修工事の追加分として二十

十万円の増額、また、国の第二次補正で計上されている地域活性化・生活対策臨時交付金事業にあ

わせた事業として、二十一年度での事業計画を前倒しして高畑住宅地上デ

ジタル放送受信工事二百八十万円、消防小型ポンプ設置事業三百五十八万

円計上しました。
歳入では、総務国庫補助金五百万円、十九年度繰越金二千九十九万八

千円が主な財源です。
・後期高齢者医療特別会計補正予算

(第一号)
二十五万八千円を追加し、予算総額五千一万八千円とする。また、翌年度に繰り越して使用できる経費「繰越明許費」として十五万八千円とする

ものです。
今回の補正は、保険料を年金天引きから口座振替に変更できる条件が緩和されたことに伴いまして、そのお知らせをするための費用を追加いたします。また、平成二十一年度においても二十年度に引き続き所得に応じて保険料が軽減されますの

で、これに伴う電算システムの改修が必要となりその費用を補正するものであります。しかし、改修委託事業の完了が二十一年六月になるといこうとで、繰越明許費として計上するものです。

第二回定例会

平成二十一年第二回定例会は、三月十一日に開会し、十九日までの九日間を会期として開催しました。

今期定例会は、人事案件一件、条例の制定一件、条例の一部改正案件二件、平成二十年度一般会計、特別会計補正予算

が七件、平成二十一年度当初予算が八件の議案が上程され、慎重審議の結果、原案のとおり可決決定されました。

副町長に高垣純司氏が選任されました。
高垣氏は、総務課長、教育長を歴任され、平成二十年九月まで教育長を務められ、任期は、平成二十一年四月一日から平成二十五年三月三十一日までの四年間です。

人事案件

▽副町長の選任につき同意を求めることについて



高垣純司さん
(五十七歳・夕田)

条例の制定

▽富加町介護従事者処遇改善臨時特例基金条例の制定について

平成二十一年度の介護報酬の改定に伴い、介護保険料の急激な上昇を抑制するために、国から交付される介護従事者処遇改善臨時特例交付金を基金として積み立て、平成二十一年度から二十三年度までの三年間で取り崩して運用することを定める

条例の改正

▽富加町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

中間所得者層の負担を軽減し高額所得者にその分の負担を求めることを目的とした国民健康保険法施行令の一部改正に伴い、上限が定められております介護分の限度額、「九万円」を「十万円」に改め、平成二十一年四月一日から施行するものです。

その他

▽工事請負契約の締結について

富加町「道の駅」地域振興施設新築工事請負契約については、一般競争入札(事後審査型制限付)により、契約金額が一億六千七百四十七万五千円で美濃加茂市古井町の株式会社「佐合木材」と締結することが決まりました。工期につきましては、契約の日から平成二十二年三月一日までの約十一ヶ月間です。

補正予算

▽平成二十年度一般会計補正予算

(第五号)

一億二千三百九十六万八千円を追加し、歳入歳出それぞれ二十五億七千五百十八万七千円となり

ました。歳出の主なものとして、総務費では、財政調整基金積立金等財産管理費で、七千八十万九千円、全額国の補助金で賄われる定額給付金給付事業費等で、九千三百四十一万五千円を追加しました。

民生費でも全額国の補助金で賄われる子育て応援特別手当支給事業費に三百四十九万二千円を追加しております。

農林水産業費、商工費、土木費では、県単独農道整備工事費等で五百五十八万一千円、道の駅地域振興施設造成工事費等で二千五百九十五万一千円、測量設計委託料等九百万円をそれぞれ減額しております。

消防費では、道の駅内に設置する耐震性防火水槽設置工事費五百三十九万三千円を追加しております。

教育費では、タウンホールとみか空調設備改修事業で三千五百万円の追加、双葉中学校のグラ

下夜間照明改修工事費では、一千五百万円を減額しました。

この度の補正予算で追加となった事業予算は、ほぼ全てが二十一年度の執行となることから、繰越明許費として計上するものです。

・国民健康保険特別会計 補正予算

(第三号)

百七十九万九千円を減額し、予算総額五億三千二百九十九万五千円としました。今回の補正は、老人保健医療費拠出金の納付決定の減額による補正です。

・老人保健特別会計補正 予算

(第二号)

九百二十二万三千円を追加し、総額五千二百八十八万円でしました。今回の補正は、医療給付費及び一般会計への繰入金による補正です。

・後期高齢者医療特別会計 補正予算

(第二号)

五百五十三万八千円を減額し、総額四千四百四十八万円でしました。今回の補正は、後期高齢者医療広域連合会からの保険料及び納付金の確定による補正です。

・介護保険特別会計補正 予算

(第三号)

二百七十二万四千円を追加し、予算の総額四億一千四百六十五万四千円としました。今回の補正は、介護給付費負担割合の見直し、介護従事者処遇改善臨時特例交付金の設置等による補正です。

・特定環境保全公共下水道 事業特別会計補正 予算

(第二号)

一千九十万円を減額し、予算の総額を二億五千七百五十万円でしました。今回の補正は、管渠測

量設計委託料・管渠の敷設工事費の補正です。

・農業集落排水事業特別 会計補正予算

(第三号)

四十万円を減額し、予算の総額を一億一千七百八十八万円でしました。今回の補正は管渠敷設工事費等の補正です。

平成20年度補正予算

一般会計・特別会計

(単位：千円)

| 会計名 | 補正前予算 | 補正額 | 補正後予算 |
|------------------|-----------|---------|-----------|
| 一般会計(第5号) | 2,451,219 | 123,968 | 2,575,187 |
| 国保特別会計(第3号) | 533,804 | △1,709 | 532,095 |
| 老人保健特別会計(第3号) | 43,657 | 9,223 | 52,880 |
| 後期高齢者医療特別会計(第2号) | 50,018 | △5,538 | 44,480 |
| 介護保険特別会計(第3号) | 411,930 | 2,724 | 414,654 |
| 特環下水道特別会計(第2号) | 268,400 | △10,900 | 257,500 |
| 集排水道特別会計(第3号) | 118,280 | △400 | 117,880 |

平成21年度一般会計・特別会計予算

(単位：千円)

| | | 本年度 | 前年度 | 対当初比金額 | 対当初比率% |
|------|-------------------|-----------|-----------|---------|--------|
| 一般会計 | | 2,508,000 | 2,383,000 | 125,000 | 5.2 |
| 特別会計 | | 1,405,778 | 1,362,655 | 43,123 | 3.2 |
| 内訳 | 国民健康保険特別会計 | 517,700 | 518,500 | △800 | △0.2 |
| | 老人保健特別会計 | 1,440 | 42,100 | △40,660 | △96.6 |
| | 後期高齢者医療特別会計 | 46,681 | 49,760 | △3,079 | △6.2 |
| | 介護保険特別会計 | 466,657 | 384,095 | 82,562 | 21.5 |
| | 特定環境保全公共下水道事業特別会計 | 260,700 | 251,700 | 9,000 | 3.6 |
| | 農業集落排水事業特別会計 | 112,600 | 116,500 | △3,900 | △3.3 |
| 合計 | | 3,913,778 | 3,745,655 | 168,123 | 4.5 |

平成21年度水道事業会計予算

(単位：千円)

| 区分 | 本年度 | 前年度 | 対当初比金額 | 対当初比率% |
|-----------|---------|---------|---------|--------|
| 3条(収益的)収入 | 134,663 | 134,381 | 282 | 0.2 |
| 3条(収益的)支出 | 134,663 | 134,381 | 282 | 0.2 |
| 4条(資本的)収入 | 1,250 | 1,250 | 0 | 0.0 |
| 4条(資本的)支出 | 23,965 | 39,180 | △15,215 | △38.8 |

町政 Q & A

そこが聞きたい

一般質問



板津徳次 議員

平成一十一年度坂井町政の施政方針について

【板津徳次議員】

平成二十一年度予算については、一般会計予算が総額約二十五億八百万円（昨年比一億二千五百万円増）とされ、特別会計を合わせて予算総額は四十億四千八百万円余とされています。一般会計の規模としては平成二十一年度一月現在の規模とほぼ同等の総額となっています。

第二回定例会の一般質問は、三月十九日に四名の議員から、平成二十一年度坂井町政の施政方針について、「道の駅の入札結果について」、「心の健康について」、「副町長の選任について」、など十件の質問が行われ、執行部の考え方を質しました。その質問の要旨と答弁は次の通りです。

昨年十二月に予算編成の基本方針と題して質問させていただいた際、坂井町長はまだ各課からの予算要求段階であるが、『引き続き各分野における行財政改革に取り組み一方、不安定な依存財源でなく、少しでもより多くの自主財源を確保しなければなりません。平成二十一年度の予算編成にあたっては、これら義務的経費の全てにわたり、

最大限の配慮をしつつ、重点施策として「道の駅地域振興施設の整備」、「滝田六九号線・稲荷北野線歩道設置事業等」まちづくり交付金事業の推進を図ってまいります。」と述べられ、その他、福祉・教育・農業分野における町民の負担軽減につながる施策をそれぞれの分野において推進していく旨答弁されたところです。

平成一十一年も早くも三月となり世界同時不況も益々悪化の一途をたどっている現在、この景気悪化に対する富加町長としてのご認識をまずもってお伺いし、次に具体的にそれぞれの施策について、特に町民の生活支援策として何を考えておられるのかお聞きします。この景気悪化の中、特別会計の介護保険料の値上げも織り込まれており町民にとって厳しさは増大するばかりです。今こそ町民の負担軽減につながる施策の実現が求められています。前向きな御答弁をお願い致します。

A 坂井町長

まず、景気悪化の認識についてお答えします。昨年秋季以降アメリカ発の金融・経済の問題は、あつという間に世界中に飛び火し派遣切りや従業員の解雇などの報道が連日の如くされました。

私の頭の中では理解していたつもりでしたが、今年の正月、あの日比谷公園内のテント村を目にするまで実感する事はできませんでした。発信元のアメリカもヨーロッパも日本も今必死になつてその対策を実施しております。我々は、その成果を只々期待し見守る他ないのではないかと思います。その中で町として出来る事があれば積極的に取り組んで参りたいと思っております。

次に、町民に対する支援ですが、このことにつきましましては、今すぐの、いわゆる目先のことを考えるのではなく、中・長期的に我々が出来ることを地道に実施していくと思いません。



▲平成20年度に整備された縄丸用水路

定額給付金並びに子育て応援特別手当の早期支給について

【板津徳次議員】

今般、与党において決定された「定額給付金」については、麻生首相の

とりあえず平成二十一年度には道の駅の開駅に合わせて、地域振興施設を完成させ、まずは地域の活性化の施策として、例えば農産物を出品するための施設の拡充を図るほか、畜産業の方々には、ふん尿処理に要する費用の負担を少しでも軽くしようとする計上をいたしております。また、この道の駅に付随する商業施設の開駅に合わせて、商業の皆さん方にも少なからずプラスの影響があるものと確信いたしております。

表明以来さまざまな議論がおこなわれ給付の是非というよりも政局として取り扱われてきたのが本当のところですが、国民の実態も定額給付金の現実的效果には疑問だが、給付が決定すれば受け取る方が大半であると報道されているところです。この財源を確保するための第二次補正予算関連法案が三日夕方、参議院財政金融委員会でも否決され、同法案は四日に衆議院本会議で再議決・再可決され、成立いたしました。

定額給付金については、平成二十年度内の三月中の給付には十分な期間が無いことは十分承知しておりますが、人口五千八百人弱の富加町であればアイデア次第で可能と考えるものです。

富加町においては現在準備中とのことですが、給付の時期・方法等具体的な給付方法についてお聞きします。

また、平成二十年度の緊急措置として、幼児教育期（小学校就学前三年間）の第二子以降の子に對し一人当たり三万六千円を支給する「子育て

援特別手当」についての支給時期・方法等具体的な支給方法についても併せてお答え願います。

子育て応援特別手当については対象人数が限られており、この手当の目的や効果を考えると、春の入園・入学の節目に合わせての支給が望まれます。

お金の給付・支給については慎重にならざるを得ず、国・県の指導も不十分な中でこそ小さな自治体の実力も問われると考えます。早期の給付・支給についての準備状況も含めお答え願います。

A

【坂井町長】

定額給付金事業については、外国人を含む全ての住民への生活支援と併せて、地域経済対策に資するものとして、総額二兆円を超える事業費を市町村が実施主体となつて、できるだけ早く年度内に給付できるように進められてきました。

全国的に早いところで、三月五日から給付が始まっており、テレビで

「定額給付金」と書かれたのし袋での現金給付が大きくクローズアップされました。

それ以来、開始未定となつておりました市町村も、給付開始が一日でも早くできるように、一斉に動き始めたところであり、富加町では、三月末日までに給付金申請書を簡易書留により郵送します。申請は、返信による郵送のほか四月二日から役場で受付ます。基本的に振込口座を記入していただき、振込による給付をお願いいたしております。

現金による給付は、事情により金融機関の口座のない方もあるかと思ひますので、一応現金給付も想定しております。ただ口座振替による給付と並行して現金給付を行うつもりは今のところ考えておりません。

極力口座振込で給付したいと考えております。

子育て応援特別手当の手続きについては、この特別手当そのものがあまり知られておりませんが、町内の給付対象者は八〇人程度あります。

該当する世帯につきま

しては、定額給付金と同一の書類で申請していただきますが、あらかじめ明記させていただきますので、別途手続きの必要はなく、定額給付金とあわせて申請の手続きをしていただきます。

富加町のような小規模自治体では、これ以上給付開始を遅らせるわけにはいきませんが、できるだけ確実に、できるだけ混雑が生じないように努めてまいりたいと思っております。



梅村和芳 議員

Q

「道の駅」の入札結果について

【梅村和芳議員】

財政基盤の脆弱さを盾に、合併の選択しかなないと叫んでいた人たちが、一転、大きな財政負担を伴い、批判の声も多い「道の駅」建設については、その旗振り役となつてい

なりません。

その問題多き「道の駅」の地域振興施設の入札が二月十九日に行われ、美濃加茂市の佐合木材が予定価格の85・7%にあたる一億六千七百万余で落札しました。

しかし、新聞で報道されているように入札に参加した二十社中、十三社が最低価格制限価格を下回つたとの理由から失格となる異常な結果となりました。

最低入札価格との差は四千万。七番目に高かった業者が落札した訳ですが、この不況下で多くの建設業者が仕事を求めている現状を考えれば85%ほどの最低制限価格は、あまりにも高くはなかつたでしょうか？

三月二日の議員懇談会でも町長は、「今回は最低制限価格勝負になると思っていた」趣旨の発言もあり、多くの業者が安い価格を提示することを十分に認識されていたことを思うとき、一層、そうした感を深くします。

まして、最低制限価格についても非公表であったならば、安い価格を示

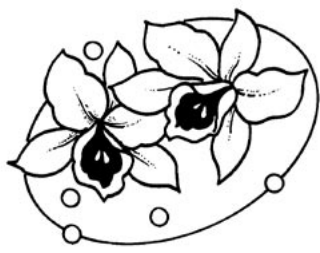
した業者との話し合い程度は、なされてもよかつたように思います。

工事の品質悪化や下請け業者たたきが懸念されたから一定の価格を確保したとの説明でしたが、政令指定都市の二〇〇七年度の平均落札率を見ると大阪、堺、神戸、広島市は、82%を下回っています。今回の最低制限価格よりも低い数字となっているのです。

また、入札結果を見て不思議に思ったことは、地元大手建設会社の多くが失格となつている点です。地元大手建設会社が、いい加減な価格を出しているとは思えませんし、いい加減な工事をすると思えません。

後日、失格した数社からお話を聞きました。「下請け業者にも理解してもらい一杯の価格を提示したのに最低制限価格で失格となり非常に残念であります。」正直、儲けを度外視すれば一億一千万円ほどの仕事で、一億六千七百万円は今の時期としては、とても美味しい仕事です。「設計単価坪百万円以上、落札単

価八十五万円なんていう道の駅は、あまり聞いたことがありません。富加町には、そんな贅沢な道の駅が必要なんですか？」といった声を聞きました。これらは失格とされた業者の話ですので、全てが正しいとは思っていませんが、全く的是ずれとも思えません。来年度からは、六十五歳以上の介護保険料が県下で一番高い五千三百五十円になる予定ですし、学校給食も月二百円アップする見込みです。町民の懐をもう少し考えていただければ、県職員の見線ではなく、町民の見線に立つて考えていただければ、今回のような入札結果にならなかつたように思います。町長のお考えをお聞かせ願います。



A

【坂井町長】

いままで、道の駅関連については、梅村議員に對して、何度も説明いたしておりましたが、道の駅事業については、町の玄関口・顔として、多くの方に知っていただき、町の産業振興の向上に一翼を担うため建設を推進して参りました。

建設に際しては、国の補助を有効に活用し、維持管理については、指定管理者制度を活用するなど、町の負担を最小限に留めるよう努めております。

道の駅建設の入札につきましては、事後審査型の一般競争入札で最低制限価格有りとして行いました。最低制限価格とは、競争入札による請負契約を締結しようとする場合において、契約の内容に適合した履行を確保するため、予定価格の制限の範囲内で落札価格の最低限度の価格をいいます。最低制限価格が高いとの指摘がありますが、落札率に異常な値を示す傾向が見られ品質に問題が生

ずると判断したことにより、調査価格から制限価格に変更し平成二十年十一月十七日から実施しております。

今回の建設については、最低制限価格は、発注者としては、最低必要な経費であると考えた金額であります。

設計をする場合は、直接工事費いわゆる工事目的物をつくるため、直接必要とする費用を直接工事費と言います。間接費、これは共通仮設費、現場管理費、一般管理費の合計をいいます。工事の設計書は、この直接工事費と間接工事費に分かれております。以上を足したものが設計工事費であります。共通仮設費とは、各工事種目に共通の仮設に要する費用であります。現場管理費とは、工事現場に必要となる費用であります。一般管理費とは、工事施工にあたる受注者の継続運営に必要な費用というふうに位置づけられております。以上の合計額に消費税を加えた価格が設計価格となります。

また、設計が高いのではないかという指摘がありました。一般の建物と比較して、厨房設備を含め、空間では一・三倍の豊かな空間を採用し、交流広場ではメンテナンスと照明の電気の節約から特殊なテント幕を採用し、太陽光発電設備を採用したこと、設計価格が、税込みですが坪当たり一〇九万円となっております。

設計に当たっては、公共建築工事積算基準を基に積算を行っており、建築物価、建築積算資料、建築コスト情報、建築施工単価の最低価格から専門業者の見積もりまたは、ヒアリングにより設計価格を算出しており、建築物等の最低価格にさらに50%から80%の値引き率を掛けて積算をいたしております。また、国土交通省公共建築工事積算基準では、間接費を直接工事費の額によって多少の前後はありますが24%としておりますけれども、今回は現場の状況、非常に仕事やりやすい、寄りつきやすいというような状況から、この24%と

しておりますのを17%で積算をいたしております。以上のことから、地球環境に配慮したり今後の維持管理費を安価にするため、特殊な資材、付帯設備の建築費を加えたことを考えれば、設計金額が高いとは考えておりません。

落札価格の低下は税金の節約につながるのか、低入札工事でも品質は確保されるなどの意見はありますけれども、度を越えた「安くて良い」工事というものは、私には存在しないものと思えます。国土交通省完成工事を対象に実施した工事成績評定では、落札率が100%から90%で品質に問題があるのは2・7%、90%から80%で4・6%、80%から70%で9・4%、70%から60%で19・4%、60%未満では23・5%となっており、落札率が低下すると工事成績は悪化する傾向であります。品質と価格は比例する結果が出ております。ダンピングは、結果として、下請業者の圧迫、材料屋さんへの圧迫、ひいては工事の品質低下につながる

り、町財産の価値を低減することになり、ライフサイクルコストでは高い維持管理費がかかり、逆に高い負担につながっていきんではないかと考えております。

従って、国では、平成十七年四月一日から公共工事の品質確保の促進に関する法律が施行され、発注者に対し、価格と品質の両面で総合的に優れた調達を追求していくことが求められております。最低制限価格が安ければ安いほどよいといった考えは誤りであり、きつちりと説明ができる価格を提出させていただいておりますことを申し添えておきます。

なお、蛇足かもしれませんが、せんけれども、私の目線は県職員の目線ではありません。100%、梅村さんと同じように町民の目線です。

**高齢者を大切に
町づくりを！
デイサービスセンター
の早期の増改築を**

【梅村和芳議員】

日本医師会会長の唐澤

祥人氏の著書『意志の主張』の中で、「高齢者を大切にすることが、地域、そして社会に安定感をもたらすのです。」という言葉に私は感銘を受けました。

最近では、「少子化対策」の名の下に、乳幼児や子を持つ親に對しては色々施策が講じられていますが、高齢者に對してはそれほどにもないように思えます。

私が議員になった二十年前ほど前は、「敬老の日」には小学校体育館で昼食を共にしました。その中で多くの年寄りの方々が「われわれは戦中、戦後といった大変な時代を過ごし、楽しい思い出なんぞ、殆どありません。今が人生の中で一番楽しいです。」とおっしゃいました。それでは今はどうでしょう？ただでさえ少ない年金から介護保険料、後期高齢者医療保険料を年金から天引きされ、その上医者にかかれば一〜二割は自己負担。以前のよう「今が一番幸せ」と感じていられる高齢者は皆無に近いと思えます。

議会においても昭和五

十九年から平成八年まで高齢化社会対策特別委員会(途中、名称変更)があり、発足当初は「老人福祉センター」建設に向けて、老人クラブ代表の方々と、あちこちの施設を見学しました。それが町財政に余裕がなくなつたら「老人憩いの家」を造るという話にトーンダウンし、結果的にはそれすら実現することなく今日に至っております。

結局のところ町が建設したのは、平成元年から厚生省のゴールドプランにより、「中学校区に一つはデイサービスセンターを造りなさい。」との指導の下、基準を満たすだけの最低限の施設を造つたに過ぎません。

そのデイサービスセンターも手狭、老朽化が進み、議会からも度々そうした声上がるにもかかわらず一向にそうした気配が見られません。

平成十二年、介護保険制度ができると同時に独立採算制を強いられ、収益を上げるために十五人までの収容施設に二十、二十五人までも押し込み、芋こで状態、どこかの収

容所を見る思いです。

一昨年、我々議会が施設を訪問した時も、かつては町のために働いていただいた立派な方々が、暗くて狭い所に押し込まれている現実を見て胸を痛めた記憶があります。

この点について町に改善を求めたところ、「町は沢山の人数をこなさないとの指導はしていません。社会福祉協議会が収益を上げるために勝手にやっていることであり、それが無理なら民間に指定管理者を移すだけで、その方が、町としても財政的に助かりますから」との返事が返ってきました。

私は開いた口が塞がりませんでした。そこには町のため、家庭のために一生懸命働いてこられた方々に、少しでも報いたいという気持ちで微塵にも感じられなかったからです。

「ゆりかごから墓場までも」とは言わないまでも、町の施設で馴染みの顔と昔ばなしを語り合っていた、そんな発想は生まれてこないのでしょうか？

現在は採算ラインギリ

ぎりの十八人前後に減っているようですが、夢ばかりを見せ、結局のところ何もしてこなかったお詫びの意味からもデイサービスセンターの増改築を早期に行い、明るく、ゆつたりとした空間を造り、富加町の高齢者は富加町で極力、面倒を見るのだという強い姿勢で臨んでいただきたいと思えます。

最後にもう一度言いますが、「高齢者を大切にすることが、地域、そして社会の安定感をもたらすのです。」担当課長のお考えをお聞かせ下さい。

A

【粥川住民福祉課長】

日本は世界でも有数の長寿国となり、本格的な高齢化社会を迎えています。富加町においても、昨年四月の高齢化率は23%ほどで、平成二十六年には27%を超えると予想されます。

一口に高齢者といっても、健康な方、介護予防が必要な方、あるいは支援や介護、さらには医療

が必要な方があります。ご質問は、老人福祉センターやいこいの家のような、健康でなじみの高齢者の方が昔話を語り合えるような施設の整備と、すでに支援や介護が必要な状態になられた高齢者に対して入浴や食事の提供、機能訓練を提供する施設であるデイサービスセンターをゆつたりと利用するための増築という二つの観点からのものだと思います。

まず、支援や介護を必要としない高齢者に対しては、世代間の交流を促し、高齢者の生きがいと健康づくりを推進し、さらに閉じこもり防止や介護予防の拠点として、平成十五年に「ふれあいサロンどうだん」の運営を開始いたしました。

場所的にも、町のほぼ中心にあつて、駐車場もありますので、馴染みの方が誘い合つてご利用いただいております。

デイサービスセンターの利用状況については、現行の介護保険制度の基準では、定員が二十五人となっており、一日当たりの利用者数は、平均十

八人となっております。そのうち、町外の利用者は一人のみでございます。

増改築については、建設当時と状況も変わってきておりますので、介護保険計画で調査した今後の高齢化率やこれに伴う利用者数の伸長や、現在策定中の地域福祉計画の中でお聞きしました要望書等をふまえ、検討を進めたいと考えております。



議員 佐曾利 敏

Q
心の健康診断について

【佐曾利敏議員】

このことにつきまして、は、昨年の六月議会で、職員の精神衛生について、「三年前に始まった行政改革に伴う弊害ではなにか」とお訊ねしました

が、その時の答弁の概要は「職員の急激な減少のため、仕事の量は増え、コミュニケーションの機会や助け合いも少なくなり、結果的に職員の心身

の健康問題が、大きな課題となり、福利厚生として「心の定期健康診断」を夏過ぎに実施する計画をしているとのこと、

診断によって構造的な課題が把握され、健康保持に必要な情報が分析され、職員と組織に最適な対策を提案される」とのことでした。

その診断の結果は、どのようなものであったか、そして、職場環境の改善について、どのような対策を行って見えるのか、お訊ねします。

A

【井上総務課長】

一般職員等七十六名を対象に八月に調査票を提出し100%の回収があり、九月の末日に診断結果を得ております。職員一人一人が自分の健康状態を知ること、自分自身の健康づくりに役立てるとともに、組織の状況の把握、職場環境の改善のための取組に役立てる目的で実施致しました。

主に身体面、精神面、職場適応、性格行動面の四つの側面から評価がさ

れております。
組織としての分析結果は、予想以上に厳しい状況がありました。

全体概要としては、①身体的には良好でありながら疲労感が強く②マイナス思考や不安感などの精神的疲労・徒労感も強くあり③自分の行動に自信が持てず活力が低下している。④また、職場への信頼感が低下しており対人関係も希薄で、個人で仕事に取り組む状況に陥っている。

職員が望んでいながらコミュニケーションがとれていない。
こうしたことから、さらにグループ長までの管理者層に対して、十一月にこの調査結果について報告会を設けて、共通認識として今後の取組課題としました。

しかし一般的に年代があるにつれて職場適応や精神健康も向上していく傾向が高いにもかかわらず、富加町は五十代が著しい悪化が見られており、この年代の活性化が必要となっています。
課題対策としては、職員としての誇り・自己成

長感の醸成、仕事を協働して取り組むなどコミュニケーションづくりを図っていくため、危機感をおおることなく納得感を持たせるなど、職場の目的目標の共有化を図っていく必要があると思っております。
いずれにしても、現状では職員数がある程度確保できないとこの状況は改善できないものと思っております。

富加町の食糧自給率向上と遊休農地について

【佐曾利 敏議員】

私たちが毎日食している食料については、年々『安全と信頼』が求められている。そんな折、一年前から、世界的な穀物価格の高騰により、国策として日本の食料自給率カローリーベースで現在の約40パーセントから近い将来50パーセント以上確保するとの強い意思が示された。
水田、農地フル活用による食糧自給率の向上を目指すとのことですが、さて、私たちの富加町では、現在その自給状況

はどの様なものか、今後、食糧自給率を向上させることについて何か考えはあるのか、そして、農地フル活用のことから、町の農振農用地三百二十五ヘクタール内の遊休農地、過去には3パーセント程度あったようですが、現在の状況はどの様になっているのか、ここ三年間の推移と解消対策は、どの様であったのか、お訊ねします。

A 土屋産業建設課長

【土屋産業建設課長】

食糧自給率向上に向けては、平成十七年三月に国において「食料・農業・農村基本計画」が定められ、消費者・農業者・食品産業の事業者等の適切な役割の下、関係者の計画的な取り組みを推進することが盛り込まれました。その一環として、地方公共団体では、地域の食糧自給率や地産地消の向上のため住民が身近の問題として考える契機を提供し、さらに、耕作放棄地の発生防止・解消を行い、農業生産の拡大を推進する事とされており

ます。
平成十九年には、日本の食糧自給率(カローリーベース)は40%、岐阜県では25%と、きわめて低い状況となっております。富加町では、生産された農産物等がすべて地場産食料として富加町内に供給されると仮定し、農林水産省で提供されている試算ソフトで計算しますと、54%となります。
富加町の自給率向上対策としては、町単独助成制度として、生産調整の水田(転作田)について、レンゲから出荷用野菜へ切り替えて頂くための助成をはじめ、平成二十一年度予算に盛り込まれました、道の駅などへの出荷用野菜の生産振興に農業用ビニールパイプ設置補助により、作付けの規模拡大を図るとともに、本町内で生産された農産物を、道の駅の直売所で販売、加工食品の開発及び地場産食材を利用したレストランメニューなど、地産地消の推進を図って参りたいと考えております。

次に、遊休農地解消対策と遊休農地の状況(過去三年間の推移)について

では、土地所有者への文書による指導とともに、優良農地については、担い手などへの利用集積のあっせんを推進し、平成十七年度に約8ヘクタール(2・5%)あった遊休農地も平成二十年度では、5ヘクタール(約1・6%)まで解消することができました。

また、不在地主などの農地については、平成十九年度より始まった農地・水・環境保全対策事業により、地域の活動組織によって、草刈りなどの保全管理をお願いするなど、今後も農業生産の拡大を推進して参ります。

ガン検診事業について

【佐曾利 敏議員】

先の新聞報道では、総務省は、ガン検診事業を支援するため、その地方交付税を倍増するとありました。

これによって、住民へのPRや健診の充実などにつなげ、胃ガンなど五種類のガン検診の受診率を、平成二十三年度を目処に、それぞれ50パーセ

ント以上に引き上げることとを、目指しているところとありました。
これは、ガン対策予算の十分な確保によって、戸別訪問での受診の呼びかけや、受診機会の多様ななどに、積極的に取り組むことが期待されることになりました。

岐阜県の平均受診率は、男性33・0パーセント、女性23・7パーセントとありましたが、富加町の三年後の状況についてはどの様な認識を持って見えるのか、お訊ねします。

A 粥川住民福祉課長

富加町では、国の補助金を受けてガン検診を行ってききましたが、平成十七年度からは補助金が廃止され、現在は地方交付税で措置されております。
ガン検診の対象者は、子宮がんが二十歳以上の偶数年齢、乳がんが四十歳以上の偶数年齢、肺がん、胃がん、大腸がんは、四十歳以上となっております。また、前立腺がんは、五十歳以上の男性の内希望者となっております。

本年度までは、年度当初に各家庭に健康カレンダーで周知し、家族調査票で受診希望者をとっておりました。受診率は、十九年度の実績で胃ガン検診が22・7%、肺ガン検診が12・7%、大腸ガン検診が27・4%、乳ガン検診が20・4%、子宮ガン検診が13・5%、前立腺ガン検診が24・6%となっておりま。受診方法としては、春に保健センターや各公民館、秋には保健センターで集団検診として行っておりま。二十一年度からは、希望をとる方法ではなく、対象者に受診票を送付する方法に変更して行う予定です。ガン対策における町の役割は、ガン予防の推進と、早期発見の推進と考えております。最近では、生活習慣の改善などで、ある程度ガンが予防できるとされています。ガンや正しい生活習慣に関する知識の普及による予防の推進、また、知識の普及推進をとおして検診の重要性を認識して頂くことが、検診の受診率向上につながります。健康づくり教室等の機会



板津敏彦 議員

副町長の選任について

〔板津敏彦議員〕

副町長の選任についてお尋ねします。

町長は就任以来三期十二年に亘り町政の改革に取り組んで見えられ、数々の改革をされてきたと聞いています。

私もその一端である青少年育成町民会議の長に選任を受け、青少年を育てる会として活動をしています。

しかし、他の市町村を見渡してみると、現在で

も市町村長が青少年育成会議の長として活動しているところがほとんどです。

こうした状況から鑑みても、坂井町長が画期的な町政の改革に取り組んでこられたことが推測され、現在までどのように取り組まれたのかをお尋ねします。

十二月の議会において、副町長を置くことに対する町条例の制定が上程され、私も、現今の激しい情勢の変化の中で、何時副町長を置く必要に迫られるかが分からないと考え、この条例化に賛成しました。

しかし、現在の他町村の対応と比較し、当町の状況から考えても副町長を置くことが必要とは考えられません。

国、県から多くの権限委譲を受けている状況下で、一番困っているのは職員であり、また、サービスを受ける町民だと思っております。

町長としての考えを伺います。

次に、副町長として選任される人選についてお尋ねします。

副町長の任務は、町長代理ではなく、町民サービスの効率化と、町職員の能力アップ、常に先を見据えた仕事の出来る職員の育成が出来る人物が必要だと思います。

この点についての町長の所見を伺います。

A

〔坂井町長〕

私は、平成八年六月二日に、町職員に対して就任の挨拶の中で、三つのことを申し上げました。

一つ目、まず休め。二つ目、遊べ。三つ目、きちんと仕事をせよ。この三つのことを申し上げました。これは後からわかったことですが、当時、町の職員の中には年休は非常に足りなくという状況、そうして終業ベルが鳴っても帰れないという雰囲気があったようであり、従いまして、私が今三つ言いましたのは、職員にとっては、ある意味では一つの意識改革の提案ではなかったかなあと、これは後からわかったことですが、

感じました。以下、何をやったかという質問でございますので、箇条書き的に若干申し上げたいと思います。

一番目に、まず古代米を使った町おこしはできないか。大宝の戸籍ができたころに思いをはせて、古代米を使った料理の開発を富加町の食生活改善協議会に提案しました。

大変な努力をされたと思えますけれども、素晴らしいものができ上がりました。これを「半布里御前」と名付けて、県の第四回大衆味おこしコンクールに出品をされております。見事、県議会賞を獲得されました。残念ながら、商品化するとはできませんでした。

そのときの事情を聞きますと、商品化してくれ場所がなかったという話でありました。しかしながら、来年開駅予定の道の駅に併設される地域振興施設の中でこのことが商品化できないか、今後提案したいと考えております。

二つ目が、ご質問にもありましたように、当時の富加町青少年町民会議

今では青少年を育てる会や、あるいは富加町の社会福祉協議会の会長職を民間に移しました。これは、充て職のような形で町長が会長をしておられることとの矛盾がいつぱいありましたので、まずできることからということで民間に移しております。さらに、ISO14001を導入いたしました。これは、職員の環境に対する意識改革を求めると同時に、無駄遣いを是正する意味がありました。

四つ目、町役場組織の改革を行いました。これは、平成十八年度から一局八課制を一局四課制に、そして係長制をグループ制に変更いたしました。これは、少しでも縦割り行政の弊害を改善することとはできないかと、そんな思いで実施致しました。三年を経過した今、必ずしもよい結果となっていないと感じております。平成二十一年度中には、もしお認めを頂けるとするならば、副町長を中心に見直しを含め検討課題といたしたいと考えております。

このことについて、どのように対応されるのかお尋ねします。

次に、避難場所への誘導についてお尋ねします。前に避難誘導について質問したところ、避難については、「町民各自の自主性により行動をお願いする」との回答がありました。また、避難後には、町民のみでなく、他町村からの応援もあり、こうした人々たちへの案内も必要です。

しかし、この九箇所の避難場所を調査した結果、国道、県道といった主要道路には案内表示もなく、緊急時にどうするのか、お聞きします。

次に、地域防災についてお尋ねします。

近年各地で大きな災害が発生しており、こうした際の地域住民による災害対応の重要性が重点施策であるといわれています。

しかし、当町においては、自治会長会がなくなり、消防団員の確保も困難となつています。また、女性の会もなく、個々の自治会でも女性の会がなくなりつつあります。

高齡化社会を迎えたとはいながら、老人会ですらなくなった自治会があります。

災害時には、地域にいる者たちがお互い助け合い、住民の安全を確保すべきであるのに、地域内の結びつきを護る、こうした会がなくなつてゆくことについて、どのようにお考えでしょうか。

A
【井上総務課長】

平成二十年三月に土砂災害警戒区域の指定により、川小牧、絹丸を除く加治田地区は、そのほとんどが急傾斜地及び土石流の土砂災害警戒区域に指定されており、川浦川を越えないと避難場所として指定できるエリアがなく、現在東児童館を避難場所として指定しています。

また、夕田、大平賀、川小牧地区の一部もこうした警戒区域に指定されており、その対応と課題については、土砂災害から生命を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるよう整備を図る必要

があります。

平成二十一年度で地域防災計画の再構築にあたり、現行の計画の不透明な点や度重なる各種防災情報等との整合性も求められており、このような防災対策上留意すべき問題点や課題などの内容を把握し、最も大きな課題となります避難勧告の基準やそのタイミングも見直していきたい。津保川、川浦川を越えての避難が想定されるので、それぞれ主要道路にかかる橋りょうの安全確保は、緊急時に欠くことのできないものであります。橋りょうの点検や長命化計画は、災害時の避難路や救援物資の確保等のためにも必要なことであり、併せて地域防災計画の見直しの際に活用していきたいと思っております。

地域住民による災害対応の重要性については、現在全て自治会単位でそれぞれ自主防災組織が形成されておりますが、少しずつ取組度合いに差が生じてきております。たとえ自治会長会や女性の会など町全体の組織があったとしても、現在のところ

影響はそれほどなかったと思っております。ただ自治会を中心とした自主防災組織の推進及び充実強化に努め、それぞれの地域の特徴を生かした地域コミュニティづくりは、地域防災だけでなくまちづくりの最重要施策と思っております。

議会の動き

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 19日 | 17日 | 15日 | 12日 | 11日 | 10日 | 6日 | 5日 | 28日 | 27日 | 26日 | 11日 | 4日 | 23日 | 26日 | 23日 |
| ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ |
| 議会議員海外視察研修 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 |
| 議会議員海外視察研修 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 | 富加町消防団機動演習 |

編・集・後・記

今年の桜は例年よりかなり早咲きで、「小学校の卒業式頃には満開になり、入学式頃には葉桜になる」と言われていました。しかしその後、冷え込んだことにより、「例年より長い間、花見を楽しむことができた」と思われた方も多くいらっしゃったのではないのでしょうか。

さて、先般の三月定例議会では、大勢の傍聴者がおみえになりました。ありがとうございました。

私たちも、さらに発展するため広報委員一同、なお一層努力をし、今、我々議会は何をすべきかを常に考え、町民皆様の期待にこたえるよう、多くの行政課題に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

議会議報委員会
委員 佐藤 正明
板津 敏彦